



NO. 575
発行
2006・7月5日
国鉄労働組合
新潟地方本部
発行責任者
守橋久仁雄
編集責任者
教宣部

共同行動で しめくくる

中越・直江津地区
全国キャラバン行動
新潟地本・最終日
6/9

全国キャラバン・新潟ゾーンの最終日に当たる九日は、八時三〇分に地方本部を出発。前日から行動に合流した、音威子府・杉山さんと全動労争



議団・末田さんに加え、加茂市職労、三条市職労、県職労南蒲支部、長岡市職労、県職労長岡支部と要請行動を重ねて、夕方、上越市・市民プラザで地域集会を開催して、新潟での取組みの最後を飾りました。

78名が結集

集会は、国労直江津支部平田委員長の司会進行により、国鉄闘争支援上越地区共闘会議・小山代表のあいさつで始まり、札幌闘争団・牧田さん、音威子府闘争団・杉山さん、全動労争議団・末田さん、函館闘争団・坂野さんらが年内解決に向けての決意と一層の支援を熱意をこめて訴えました。



これに於いて、上越地区平和環境労組会議・牧田事務局長（札幌闘争団の牧田さんとは別人です！）、上越地区労連・本間議長が激励と連帯のあいさつを述べました。

カンパ3万2387円

会場でカンパが取り組まれ集まった3万2387円は『陣中見舞』と徹布を添えて小山代表から闘争団に手渡されました。



激励あいさつ

上越地区共闘会議 小山代表

今日まで20年間、言葉に尽くせぬ苦労をしてきた。訴訟救助の問題を一番に考えていかなければならない。

国労本部、地位確認を含めて訴訟に踏み込んで欲しいし、地方本部も内外に明らかにしてもらいたい。

故秋元氏の無念を晴らしたい。年内にしっかりとした全面解決を図れるようがんばっていききたい。

闘争団訴え

札幌闘争団 牧田氏

5月4日～6月16日の全国キャラバンで強く訴えたのは、『自治体意見書』の取組みだった。6月4日は1000名を超える北海道最終集会ができた。

意見の違いは行動の違いに発展したがこの機に、ひとつになって闘いを進めようと意思統一した。年内中に政治解決の明確な方向を作り上げたい。



集会は、七八名を結集し、このあと『JR採用差別事件の早期解決を求める集会決議』を全員の拍手で採択。小山代表の団結ガンバローで締めくくりました。

大同団結の姿 見せることができた

新潟ゾーンを通していえることは、大集会所なかったものの、酒田、新潟、直江津と地域の仲間と密着した、人のぬくもりが感じられる集まりを各所で開催できたこと。闘争団と争議団訴訟をしたものとしなかったものの違いを乗り越えて、大同団結の姿を支援の皆さんに見せることができた。このことに尽きると思います。この力を糧に、年内政治解決に全力を傾けよう。





物心両面にわたる支援によって、二〇年支えられてきた。国労三四名、全体で四〇名亡くなった。平均年齢五三歳、函館は五七歳だ。四〇代の仲間だけでも何とか現場復帰させたいと願っている。年内解決を勝ち取るため、全力を挙げたい。

秋元和広の遺志を継いでいく闘いにしていきたい。四党合意の混乱の中でも、三六闘争団が団結しなければ、という立場でやってきた。六月一日、様々な意見は出たが、最終的には違いを乗り越えて、ひとつにまとまろうという結論だった。地元でも五月八日、二〇年目にして共同行動を取り組めた。二六日の終結集会を成功裏に終らせたい。

函館闘争団 坂野氏

北海道で、全動労は二〇人に二人の採用だった。六四名で出発最終的に六一名となり、六名が死んだ。国労、全動労を狙い撃ちにしたもの。中央や地方でこうしたアピールの場所を作って、解決交渉に臨むことが重要。二〇四七名がさらに団結して訴えていきたい。

全動労争議団 末氏

青森県は千人を切る一番小さい村、そのうち二六人がわれわれの仲間だ。金銭だけの解決でなく、年金・雇用の問題が重要。全動労も含め、同じ土俵で闘いたい。

闘争団の訴え

青森県闘争団 杉山氏

四党合意での分裂はあったが、『す・15判決』は支援の力によるもの、感謝したい。政府に向けて、一日も早い解決を求めるといことで、全体が一致した。国労本部にも裁判を求めたい。



全国キャンペーン 振り返って